

# 俳句ポスト表彰式を開催しました



令和二年度

## 俳句ポスト表彰式



# 風流のはじめ館

第5号  
令和3年7月号

雪の雲空にひろがり立ち止まる  
雪雲がまるで生きていますように  
すね。雪雲の重い足取りが時々  
じつと動かない時があります。  
「立ち止まる」のですね。雪の  
降る前の音のない静かな寒さが  
見事にえがかれています。(選評より)

## 俳句

世界でもっとも

短い詩です。

季語は季節の風物。身の  
まわりにある風物にふれ、

五七五の十七音で  
よんだものです。

牡丹賞

風流や下がれ下がれの田うゑ唄

赤松賞

勢至堂峠越えきし風花よ

翡翠賞

末黒野や疎水の一番水通る

ぼたん賞

雪の雲空にひろがり立ち止まる

あかまつ賞

はく息の白さマスクに閉じこめる

かわせみ賞

そうめんの皿にひろがるオクラの星

等躬賞

須賀川市立阿武隈小学校

武田喜代子

古川 春枝

関根 邦弘

高倉 天也

田中 瑞希

柳沼 奏羽



## 展示品の紹介



条幅 朝顔にわれは飯食くふおとこ哉

はせを

英一蝶画・松尾芭蕉賛

複製・当館蔵

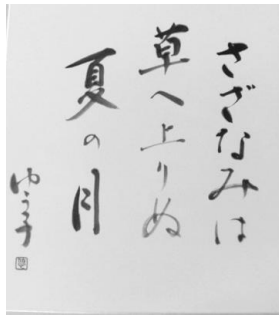
鯉屋(杉山杉風家)伝来

奈良 天理図書館綿屋文庫蔵

一六八二年、芭蕉三八歳の時の作品。

竹の花活はなかつよりたれた朝顔のつるに、芭蕉が

句をかいた極小色紙を調和よく描いた一幅。



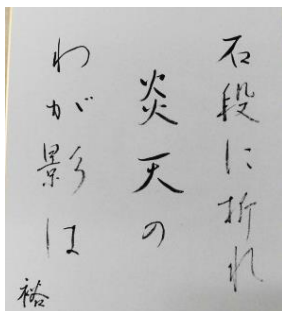
さざなみは

草へ上りぬ

夏の月

正木ゆう子

夏の月の美しい夜、草むらにやわらかな夜風が吹いています。風にゆれる草の波は根元から草の先へ「上つてゆく」のだという表現は、風景の静けさを強調しています。



石段に折れ

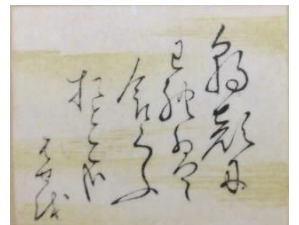
炎天の

わが影は

押野 裕

作者は激しい日差しが照りつける中、石段にそって折れる自分の影に気がつきませす。それは青春という季節に陰りかげというものを感じる自分そのものと思えたのです。

作品中の句



わたしは、日常は朝早く起きて、朝顔をながめながら飯を食う男だよ。

句は、其角編『虚栗』。

宝井其角の「草の戸に我

は蓼たくふ蚩ほたるかな」の句に

こたえてよんでいます。

酒好きで派手な作風の其

角をたしなめた一句でしょうか。



# 施設利用例

たとえば  
こんな  
使い方



地域学習・移動研修



作品展・展示会



ワークショップ



発表会・講演会



勉強会・研修会



# おしらせ

7/2 (水) ~  
文月から  
葉月の  
テーマ展  
「盛夏」

自分で句を作るのも  
素敵ですが、さまざま  
な句を味わうだけで  
も楽しいと思えます。

8/4 8/5  
(水) (木)

夏休み  
こども  
俳句教室

小学生

夏の遊びをしたり、  
消しゴムはんこを  
つくったり、  
俳句をつくったり。

8/7  
(土)

夏の夜の  
こわーい昔話

親子  
一般

真夏の夜、あんどん  
の灯りとこわい昔話  
で涼みませんか

すかがわ  
俳句ラボ

2021

8/20  
(金)

高学生



# 名句鑑賞



版画「おくのほそ道」より  
小野塚虎男

閑さや岩にしみ入る蝉の声  
岩々にしみ入っていくせみの声が、  
山寺のしずけさを一層深めていく。  
心は静かに澄みゆくばかりだ。

1689年5月27日(今  
の暦では7月13日)  
芭蕉が立石寺(山形県  
山寺)でよんだ句です。



# 言の葉

## 蝉時雨

たくさんの蝉が  
まるで時雨が  
降りつけるように  
一斉に鳴きたてる声を  
例えたことばです。

たいしょ  
大暑

梅雨も明け  
強烈な陽射しが  
照りつける日々  
がつづきます。

七十二候

## 涼風至る

八月八日ごろ〜十二日ごろ  
猛暑真ただ中、スウツと涼  
しい風が吹いてくることばが  
あります。涼風はすずかぜとよ  
んで晩夏の季語とされます。



# 四季彩の庭 だより

秋の七草  
咲き始めました。



ききょう  
桔梗

うつむき加減で  
凛とした姿が  
印象的です。



われもこう  
吾亦紅

赤茶の丸い花穂  
が可愛く、風に  
そよぐ姿に風情  
を感じます。



# 俳句募集

募集期間 通年

選句会 年2回(8月 2月)

部 門 一般の部・子どもの部

学校の部

<https://s-fuyu.jp/>

ホームページを  
開設しました。  
施設の紹介をはじめ、  
企画展や講座、イベント  
情報などを発信しています。